

様式第2号の1－①【(1)実務経験のある教員による授業科目の配置】

学校名	盛岡大学短期大学部
設置者名	学校法人盛岡大学

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

(1) 幼児教育科

No.	実務経験のある教員等による授業科目名	単位数	備考	添付書類
1	教育原理	2		No.1-1
2	保育内容総論	2		No.1-2
3	保育原理	2		No.1-3
4	乳児保育 I	2		No.1-4
5	子どもの保健	2		No.1-5
合計単位数		10		

講義科目名称： 教育原理

授業コード： T1518

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2 単位	幼稚園免許必修・保育士資格必修
担当教員			
岩崎 基次			
幼児教育科DP (1) (2)に関連	幼教－専門－幼免－保育【幼・保】	実務経験のある教員による授業	【講義】
添付ファイル			

小見出し	幼児教育の原理	
授業計画	第一回	教育とは何か、教育の意義と目的
	第二回	学校教育の基礎になった思想 1（コメニウス と ルソー）
	第三回	学校教育の基礎になった思想 2（ペスタロッチ）
	第四回	幼児教育の基礎になった思想 1（フレーベル）
	第五回	幼児教育の基礎になった思想 2（モンテッソーリ）
	第六回	学校教育の基礎になった思想 3（デューイ）
	第七回	海外の幼児教育の実践例 「レッジョ・エミリアの幼児教育DVDの視聴」（情報リテラシー教育）
	第八回	海外の幼児教育の実践例「レッジョ・エミリアの幼児教育、オランダやフィンランドの幼児教育について」（情報リテラシー教育）
	第九回	先人たちの示している経験主義教育と日本の教育の思想、「遊びを通して総合的な指導」の関連
	第十回	日本の学校教育の経験主義教育の実践事例『きのくに子どもの村学園』（DVD）による課題提示（情報リテラシー教育）
	第十一回	現代の日本の小学校教育の考え方 「生活科の取り組みと総合学習」
	第十二回	各自『きのくに子どもの村学園』に関した課題について調べたものをもとにグループで協議、全体発表、それらに対する講評
	第十三回	日本の学校教育の方向性と『きのくに子どもの村学園』の教育の共通点と違いについて
	第十四回	幼児教育と小学校教育の接続の理解
	第十五回	幼児教育における「環境を通して学び、共同の学び」について
授業のねらい及び概要	ここでは、歴史の先人たちの功績から教育の理論と実践、幼児教育から義務教育の教育の核となる考え方を学びながら、現在の初等教育と保育の基礎となっている「体験を通して」学ぶこと「遊びを通して総合的な指導」とは何か、について考えながら理解することを目的とする。前半に先人たちの功績を学びながら、授業の後半には前半の学んだ知識を基に幼児教育を実践（幼稚園教諭15年間）経験してきた実践を提示しながら理論や教育の制度を理解し、現在の初等教育の実際の難しさや問題について考える。教育原理の知識を記憶することに執着せずに、初等教育において提示された課題について各自が調べたことを元に発表し合うことを通して、考える視点を広げ自己解決能力を培いながら学べるように進めていこうとするものである。	
到達目標	到達目標1	1. 家庭と学校と社会の中で教育の考え方、課題について考え理解する。DP (1)
	到達目標2	2. 歴史の先人たちの教育の理論と実践の内容を理解する。DP (1)
	到達目標3	3. 歴史的な教育の思想を基盤として現代の教育の基礎ができていることを理解する。DP (1)
	到達目標4	4. それらが現在の幼児教育、初等教育の中で「体験を通して」学ぶこと、また、幼児教育の中で「遊びを通して総合的な指導」とあるが、その関連について考え、理解する。DP (1) (2)
	到達目標5	5. 具体的な教育事例を通して現在の教育現場の問題について学生同士の考えを伝え合い、議論することによっていろいろな視点で考えることができる。DP (1) (2)

	到達目標6 到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	事前に、現在の初等教育の現場における課題について考えておく。また、授業前には15分程度前授業のつながりを見ておく。 事後に、授業で行った内容について15分程度そこでの重要なことは何か自分なりに考えてみる。
評価方法	レポート(40%)として、経験主義の教育内容についてのレポートを評価する。 試験(60%)として、総合的に内容についてペーパーテストを行い評価する。 授業の参加の仕方や提出物等の状況によって減点の対象とする。
履修上の留意点	・学生同士の協議時は、積極的に参加して意見交換を行い、問題に対する考え方の違いのみならず、その根拠とする考え方に目を向けることとする。 ・何らかの事情で授業を欠席した場合には、次の授業までに配布プリント等を取りに来て授業内容を確認すること。
テキスト	プリント配布、(株)みらい、井上孝之編、知のゆりかご『つながる保育原理』、2,268円 幼稚園教育要領解説
参考文献	適宜紹介
教員e-mailアドレス	miwasaki@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室前に掲示

講義科目名称： 保育内容総論

授業コード： T1122

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2 単位	幼稚園免許必修・保育士資格必修
担当教員			
古川 洋子			
幼児教育科DP(1)(2)(3)関連	幼教－専門－幼免－保育【幼・保】	実務経験のある教員による授業	【演習】
添付ファイル			

小見出し	保育内容に関する基本と指導に関する総合的視点の理解		
授業計画	1	保育内容総論で学ぶこと	
	2	子どもの権利について	
	3	幼稚園の一日～法令を読み解く～	
	4	認定こども園の一日～法令を読み解く～	
	5	保育所の一日～法令を読み解く～	
	6	5 領域と保育内容	
	7	環境を通して行う保育	
	8	生活や遊びを通して行う保育	
	9	保育の計画と評価	
	10	乳幼児期（0. 1. 2歳児）の特性と保育内容	
	11	幼児期（3. 4. 5歳児）の特性と保育内容	
	12	子育て支援と保育内容	
	13	安心・安全に関する保育内容	
	14	保育内容の歴史的変遷	
	15	保育内容をめぐる課題と展望	
授業のねらい及び概要	・ 保育の基本を理解し、保育内容を総合的に学ぶことをねらいとする。 ・ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育の基本・保育内容をふまえて、保育の全体的構造について理解する。 ・ 幼稚園教諭や子育て支援に携わってきた授業担当者の実務経験を活かし、保育の多様な展開について具体的に学び、子どもを理解し実践を構想する保育者としての基本的視点を養う。		
到達目標	到達目標1	・ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている保育の基本や保育内容について説明できる。（DP1/DP2）	
	到達目標2	・ 地域の特性や子どもたちの多様性を踏まえた保育内容を考えることができる。（DP2/DP3）	
	到達目標3	・ 子どもの権利を尊重し、遊びを中心とした保育について理解することができる。（DP1/DP2）	
	到達目標4		
	到達目標5		
	到達目標6		
	到達目標7		
	到達目標8		
事前・事後学修	・ 事前学修として、講義内容を下調べし自分なりの意見や疑問点をまとめておくこと。（30分程度） ・ 事後学修として、講義内容について、資料や文献などで確認したり、情報共有を行うこと。（30分程度） ・ 保育の基本概念等について、自分なりに説明することを求める。そのため、理解した内容を言語化・文章化		

	するトレーニングを行うこと。(15分程度) ・保育、子どもに関するテレビや本、新聞記事などに関心を持ち、見聞を広げる姿勢を持つこと。(15分程度)
評価方法	・レポート試験(40%)、試験(60%)を行い総合的に評価する。 ・授業への参加の仕方や提出物等の状況によっては、減点の対象となることがある。
履修上の留意点	第一回講義で説明を行う。
テキスト	①「幼稚園教育要領解説」(文部科学省, フレーベル館) ISBN 978-4577814475 ②「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府・文部科学省・厚生労働省, フレーベル館) ISBN 978-4577814499 ③「保育所保育指針解説」(厚生労働省, フレーベル館) ISBN 978-4577814482 *すべて生協書籍コーナーにて販売
参考文献	授業で適宜紹介する。
教員e-mailアドレス	y.furukawa@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室前に掲示する。

講義科目名称： 保育原理

授業コード： T1124 T1127

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2 単位	卒業必修・保育士資格必修
担当教員			
岩崎 基次			
幼児教育科DP (1) (2)に関連	幼教－専門－卒業【卒・保】	実務経験のある教員による授業	【講義】
添付ファイル			

小見出し	保育の理論と内容	
授業計画	第一回	子どもの誕生と子育ての問題等についての理解「園内外の保護者に対する子育て支援」
	第二回	幼稚園、保育所、認定子ども園等の施設についての理解
	第三回	子どもの最善の利益と保育（具体的な事例を通してディスカッション）
	第四回	子どもの理解(実態)に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の理解
	第五回	保育内容の五領域について
	第六回	幼児期に育みたい資質・能力、育ってほしい10の姿
	第七回	保育と形態 【子どもの自由度から見た形態(一斉保育と自由保育)】(定義について)
	第八回	保育と形態 【一斉保育と自由保育の課題と対応】(長所短所についてグループワーク、発表)(解説して理解を深める)
	第九回	保育と形態 【子どもの自由度から見たその他の形態】(定義について)
	第十回	保育と形態 【縦割り保育、統合保育等】(長所短所についてグループワーク、発表)(解説して理解を深める)
	第十一回	遊びの見方(バーテンの遊びの分類、機能的側面の分類)（事例を基にグループワーク、発表)(解説して理解を深める)
	第十二回	子どもの主体的な活動と環境構成の意義
	第十三回	子どもの主体的・対話的で深い学びの内容（事例を基にグループワーク、確認と振り返り）
	第十四回	保育での危機管理と教育
	第十五回	保育内容の記録と個々の育ちの記録、 家庭・地域との連携
授業のねらい及び概要	この授業では、保育の意義及び目的について理解し、保育の現状と課題について知り理解を深める。その上で保育に関する制度等と保育所保育指針における保育の必要性とその位置づけについて理解することをねらいとする。具体的には、保育の意義や目的等について事例を提示しながら具体的に理解できるようにする。また、歴史的背景と思想、地域性の課題等について、保育の形態と遊びの指導、保育の共同性と育ち合い、個々の尊重と主体的な学び等について具体的に状況を思索しながら学ぶことが出来るようにする。幼児教育を实践(幼稚園教諭15年間)経験してきた実践より保育の現場でのそれぞれの園に応じた実際の状況を伝えながら保育の根本の原理について焦点をあて、学生同士グループワークを取り入れながら理解を深めていくこととする。	
到達目標	到達目標1	1. 具体的に現在の保育の現状と課題についてその関係を説明することができる。DP(1)
	到達目標2	2. 保育所と幼稚園の保育の共通点と相違と小学校との接続に関して理解する。DP(1)
	到達目標3	3. 地域や保育の理念の違いにより、様々な保育の形態の良さと問題点を理解し具体的に発表する。 DP(2)
	到達目標4	4. 危機管理の理解と地域とのかかわりの重要性について理解し子育て支援の実践について理解を深める。DP(2)
	到達目標5	
	到達目標6	
	到達目標7	

	到達目標8
事前・事後学修	事前に、実際に保育所を見学して一日の流れ知ること又は具体的な保育の流れが分かる資料に目を通しておく。 授業前には、事前に行うところを10分程度目を通しておくこと。 事後に、授業で行った内容について20分程度そこでの重要なことは何か自分なりに考えてみる。
評価方法	レポート(30%)として、保育内容についてのレポートを評価する。 試験(70%)として、総合的に内容についてペーパーテストを行い評価する。 授業の参加の仕方や提出物等の状況によっては減点の対象にする。
履修上の留意点	・学生同士の協議時は、積極的に参加して意見交換を行い、問題に対する考え方・視野を広げること。 ・何らかの事情で授業を欠席した場合には、次の授業までに配布プリント等を取りに来て授業内容を確認すること。
テキスト	プリント配布、(株)みらい、井上孝之、知のゆりかご『つながる保育原理』、2,268円
参考文献	保育所保育指針解説
教員e-mailアドレス	miwasaki@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室前に掲示

講義科目名称： 乳児保育Ⅰ

授業コード： T1512

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2 単位	保育士資格必修
担当教員			
石川 正子			
幼児教育科DP(1)に関連	幼教－専門－保育【保】	実務経験のある教員による授業	【講義】
添付ファイル			

小見出し	乳児の理解を深める。		
授業計画	第1 回	乳児保育の意義	
	第2 回	乳児保育の歴史と現状	
	第3 回	3歳未満児の発達と特性	
	第4 回	6か月未満の発達と保育	
	第5 回	1歳3か月未満の発達と保育	
	第6 回	2歳未満の発達と保育	
	第7 回	3 歳未満の発達と保育	
	第8 回	乳児保育の内容と方法（食事・睡眠）	
	第9 回	乳児保育の内容と方法（排泄・着脱衣・清潔）	
	第10 回	乳児保育の内容と方法（遊び）	
	第11 回	乳児保育の内容と方法（保育者の配慮）	
	第12 回	乳児保育の内容と方法（健康・安全管理）	
	第13 回	乳児を取り巻く保育の環境	
	第14 回	保育の計画と記録	
	第15 回	乳児保育の今後の課題	
授業のねらい及び概要	乳児期は、人としての基礎を培う大切な時期といわれている。人間形成の基盤である愛着を形成し、生活習慣の基礎を獲得する。それらを通して言語や知的発達、人間関係などの基礎を獲得していくのである。乳児保育を担当する保育者としての役割を理解し、保護者の養育力の支援についても理解を深めていく必要がある。乳児保育の意義や重要性、配慮事項などを習熟することを目的としている。本講義は、保健師および養護教諭としての知識を生かし、長年の看護師および助産師としての実務経験に基づき、具体的な事例の解説を行いながら講義を行う。乳児の発達上の特徴や援助方法について映像などを通して講義していく。		
到達目標	到達目標1	乳児保育の意義や目的と歴史的変遷および役割などについて理解できる。（DP1）	
	到達目標2	保育所や乳児院などの多様な保育の現場における乳児保育の現状と課題について理解できる。（DP1）	
	到達目標3	3 歳未満児の発育および発達をふまえた保育内容と運営体制について理解できる。（DP1）	
	到達目標4	乳児保育における職員間の連携・協働、保護者や地域の関係機関との連携について理解できる。（DP1）	
	到達目標5		
	到達目標6		
	到達目標7		
	到達目標8		
事前・事後学修	事前学修として、事前学修として、シラバスまたは授業時の指示に従い、講義内容の理解を深められるよう関連する本や記事などを読んでおくこと		

	事後学修として、ノートを振り返り不明な点は確認するなどして、効果的な学習になるよう努めること。ボランティア活動などの様々な機会に、主体的・積極的に乳児とかかわる機会をつくること。（要する時間90以上） 保育所実習では、乳児保育の学びを積極的に実践すること。
評価方法	定期試験100%
履修上の留意点	履修中の私語厳禁、携帯の電源を切ること。受け身ではなく、実際の子どもの姿・保護者を想像しながら受講すること。保育者として、職務についたときをイメージしながら臨むこと。
テキスト	使用しない
参考文献	乳児保育の理解と展開 須永 進編 同文書院 保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省編 フルーベル館
教員e-mailアドレス	syouko_i@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	C校舎2階 L B 2 1 3 前に提示する。

講義科目名称： 子どもの保健

授業コード： T1117

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2 単位	保育士資格必修
担当教員			
石川 正子			
幼児教育科DP (1)に関連	幼教－専門－保育【保】	実務経験のある教員による授業	【講義】
添付ファイル			

小見出し	保育者として子どもの心身の健康の健康増進を図るための基礎知識を身につける。		
授業計画	第1講	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的	
	第2講	健康の概念と健康指標	
	第3講	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	
	第4講	地域における保健活動と児童虐待と防止	
	第5講	身体発育と生理機能の発達と保健	
	第6講	運動機能と精神発達	
	第7講	健康状態の観察	
	第8講	発育・発達の把握と健康診断	
	第9講	保護者との情報共有	
	第10講	主な疾病の特徴① 子どもの病気の特徴、感染症、免疫・アレルギー性疾患	
	第11講	主な疾病の特徴② 消化器疾患、循環器疾患、血液疾患	
	第12講	主な疾病の特徴③ 内分泌・代謝疾患	
	第13講	主な疾病の特徴④ 神経系の疾患、腎・泌尿器疾患	
	第14講	主な疾病の特徴⑤ 先天性の疾患	
	第15講	子どもの疾病の予防と対応	
授業のねらい及び概要	保育の専門家として子どもの生命の保持および情緒の安定を図るために、ひとり一人の健康や発育状態に応じた保健活動について習熟することを目的としている。具体的には、解剖学の観点から人体の発達や生理機能などの基礎知識を習得し、健康状態の観察および主な疾病の特徴や予防、適切な対応などについて画像を取り入れながら教授する。本講義は、保健師および養護教諭としての知識を生かし、長年の看護師および助産師としての実務経験に基づき、具体的な事例の解説を行いながら講義を行う。		
到達目標	到達目標1	子どもの保健の意義と目的が理解できる（DP1）	
	到達目標2	子どもの発育および発達について理解できる（DP1）	
	到達目標3	子どもの健康状態の観察や主な疾病の特徴や予防・対応が理解できる（DP1）	
	到達目標4		
	到達目標5		
	到達目標6		
	到達目標7		
	到達目標8		
事前・事後学修	事前学修として、シラバスまたは授業時の指示に従い受講前にテキストの該当箇所を熟読し授業に臨むこと。講義内容の理解を深められるよう関連する本や記事などを読んでおくこと 事後学習として、ノートやテキストを振り返り、不明な点は確認するなどして効果的な学習になるように努めること（要する時間90分以上）		
評価方法	定期試験 100%、		

履修上の留意点	履修中の私語厳禁、携帯の電源を切ること。保育者として、多様な子どもの命を守り健やかな育ちを支援するために必要な知識であるため、真摯に取り組むこと。
テキスト	子どもの保健・健康と安全 - 理論と実際 - 岸井勇雄・無藤隆・湯川秀樹 [監修] 同文書院
参考文献	子どもの保健 及川郁子・草川 功編 建帛社
教員e-mailアドレス	syouko_i@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	C校舎2階 L B 2 1 3 前に提示する。